

重要文化財（建造物）の指定について

国の文化審議会（会長佐藤信）は、平成30年5月18日（金）に開催される同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに10件の建造物（新指定9件、追加指定1件）を重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申する予定です。

兵庫県では、高座神社本殿（丹波市山南町）1件、1棟が含まれます。※（これにより、兵庫県内109件、265棟となります。）

この結果、近日中に行われる官報告示を経て、重要文化財（建造物）は、2,489件、4,998棟となる予定です。

【指定答申を受ける建造物】

【新指定】 高座神社本殿（丹波市山南町） 1件 1棟

高座神社は、丹波市山南町谷川に所在する神社で、近世には「高座大明神」として柏原藩織田家の庇護を受け、篠山川流域に広がる久下谷の総鎮守として崇敬された。

高座神社本殿は丹波地方で最大級の規模を有する近世神社本殿で、流造の正面に向拝を張り出す独自の平面や、彫刻で飾られた複雑かつ精緻な組物、正面屋根の左右に千鳥破風を配する華やかな屋根形式など、豊かな創意と高い技量が看取される意匠的独創性と、立ちの高い向拝形式や部分的に彩色された細部装飾といった地方的特色を兼ね備える神社本殿として高い価値を有していることが評価された。

1 全国の状況（平成30年5月18日現在）

種別	現在指定数		今回指定			合計	
			新指定		追加指定		
	件数	棟数	件数	棟数	棟数	件数	棟数
重要文化財 建造物	2,480 (225)	4,959 (284)	9 (0)	35 (0)	4 (0)	2,489 (225)	4,998 (284)

※（ ）内の数字は国宝の内数

2 兵庫県の状況（平成30年5月18日現在）

種別	現在指定数		今回指定		合計	
	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
重要文化財 建造物	108 (11)	264 (14)	1 (0)	1 (0)	109 (11)	265 (14)

※（ ）内の数字は国宝の内数

※県内の建造物の詳細調査（市町史・市町報告・個別調査）の内個別調査の一定の進展をふまえて評価された。

※本県での重要文化財（建造物）指定は平成26年9月以来（前回は西宮市・神戸女学院）、丹波市では昭和49年2月以来44年ぶり3件目（前回は旧友井家住宅）。

【指定答申を受ける建造物の概要】

たかくらじんじゃほんでん
高座神社本殿（丹波市山南町） 1棟

附 棟札9枚

所在地：丹波市山南町谷川3558番地

所有者：宗教法人 高座神社

(1) 指定基準

「意匠的に優秀なもの」及び「流派的又は地方的特色において顕著なもの」

(2) 構造形式

五間社流造、向拝一間、軒唐破風付、檜皮葺

(3) 概要

高座神社は、丹波市山南町の山間を西流する篠山川の左岸に開けた谷川の地に所在する。創建については詳らかでないが、元慶3年(879)に谷川の対岸にある金屋に創始したと伝わる。主神は高倉下命たかくらじのみことで、天火明命あめのほあかりのみことなど四柱を配祀する。中世に地頭久下氏の祈願所となり、弘治3年(1557)に現在地へ社地を遷したとされる。近世には「高座大明神」として柏原藩織田家の庇護を受け、篠山川流域に広がる久下谷くげの総鎮守として崇敬された。

境内は山裾に広がる平坦地で、奥寄りに本殿が南面して建ち、東側に二宮神社と皇大神社、西側に五大神社が並ぶ。本殿正面に拝殿と石鳥居が建ち、南西に延びる参道を経て、境内南端に大鳥居と随神門を構える。参道の東側には社務所と神輿庫が建つ。

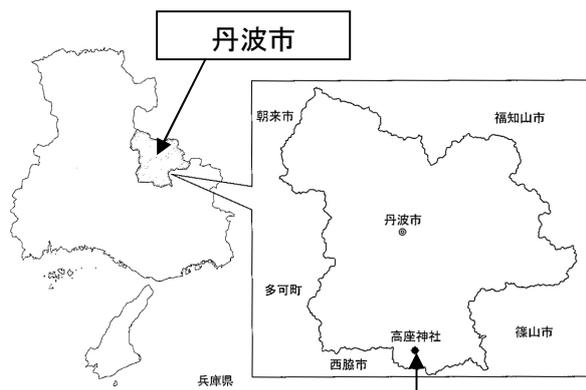
本殿は棟札⁽¹⁾などより、久下谷の氏子13カ村が施主となり、宝永2年(1705)に上棟、翌3年に遷宮が行われたことがわかる。以降、定期的に屋根葺替や修理を重ね、現在に至っている。

本殿は五間社流造⁽²⁾、檜皮葺⁽³⁾で、正面中央に入母屋造⁽⁴⁾、軒唐破風付⁽⁵⁾の向拝⁽⁶⁾を付し、大屋根に左右二箇所の千鳥破風⁽⁷⁾を飾る。身舎は桁行正面五間、背面六間、梁間二間で、正側面に擬宝珠高欄⁽⁸⁾付の縁を廻らせ、縁の後端に脇障子⁽⁹⁾をたてる。

内部は棟通りの柱筋で内外陣に分け、外陣正面は格子引違⁽¹⁰⁾とし、内外陣境は板唐戸⁽¹¹⁾を開く。内陣は、奥寄りに桁行全長の棚を造り、五区画の神棚を設ける。

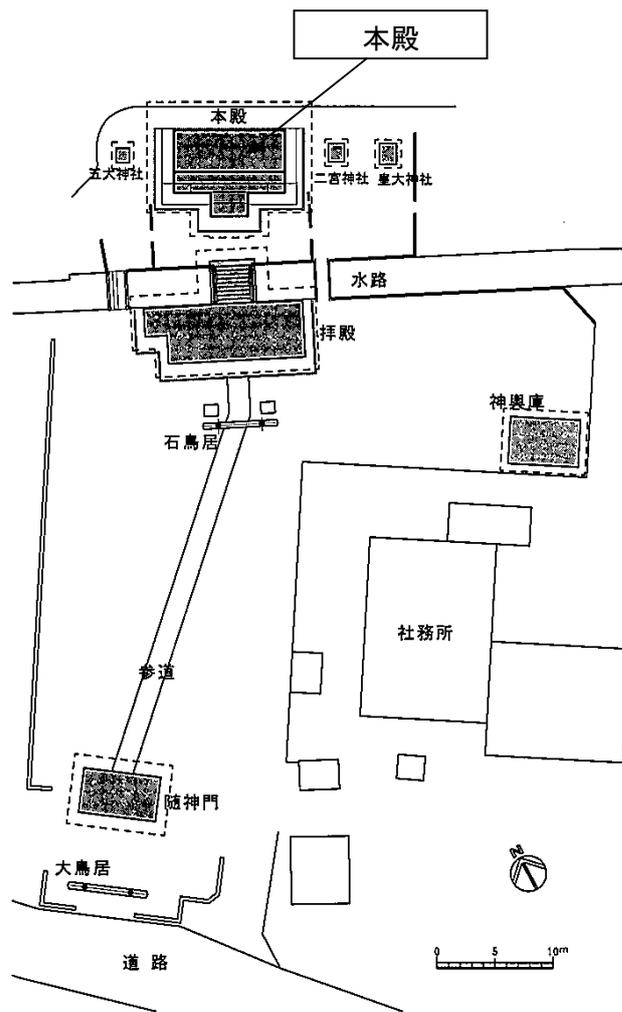
彫刻は、向拝、庇廻り及び妻飾⁽¹²⁾など見え掛かりとなる正側面に多用される。向拝正面は、中備⁽¹³⁾に「高砂⁽¹⁴⁾」を配し、妻虹梁⁽¹⁵⁾上の「力士」に雲形彫刻を飾る。庇と身舎は、囊股⁽¹⁶⁾のモチーフに種々の鳥、実の生る植物などをあしらい、板支輪⁽¹⁷⁾には「天人」「雲」など、正側面組物⁽¹⁸⁾の木鼻⁽¹⁹⁾、尾垂木⁽²⁰⁾、持送⁽²¹⁾などには「龍」などの霊獣、手挟には「迦陵頻伽⁽²²⁾」「牡丹」などを飾る。建物全体は素木であるが、鬼板⁽²³⁾や懸魚⁽²⁴⁾なども含め彫刻部分には彩色が施され、当地の地域的な特徴を示す。

高座神社本殿は丹波地方で最大級の規模を有する近世神社本殿で、独自の平面や複雑かつ巧緻な組物、華やかな屋根形式などに豊かな創意と高い技量が看取されるとともに、向拝形式や細部装飾の各所に当地方の社寺建築の特長が認められる。造営背景が明らかで江戸中期の丹波地方における神社本殿の指標となる点でも重要であり、顕著な地方的特色と意匠的独創性を備える神社本殿として高い価値を有している。



高座神社

神社位置図



境内配置図

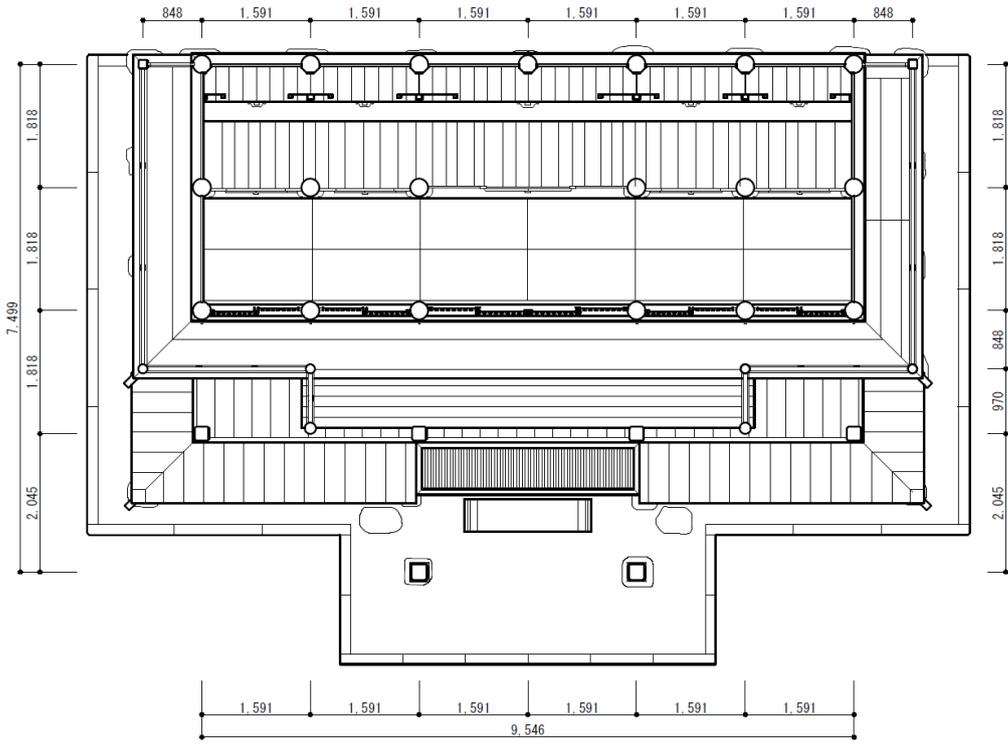


本殿外観（南東面より見る）

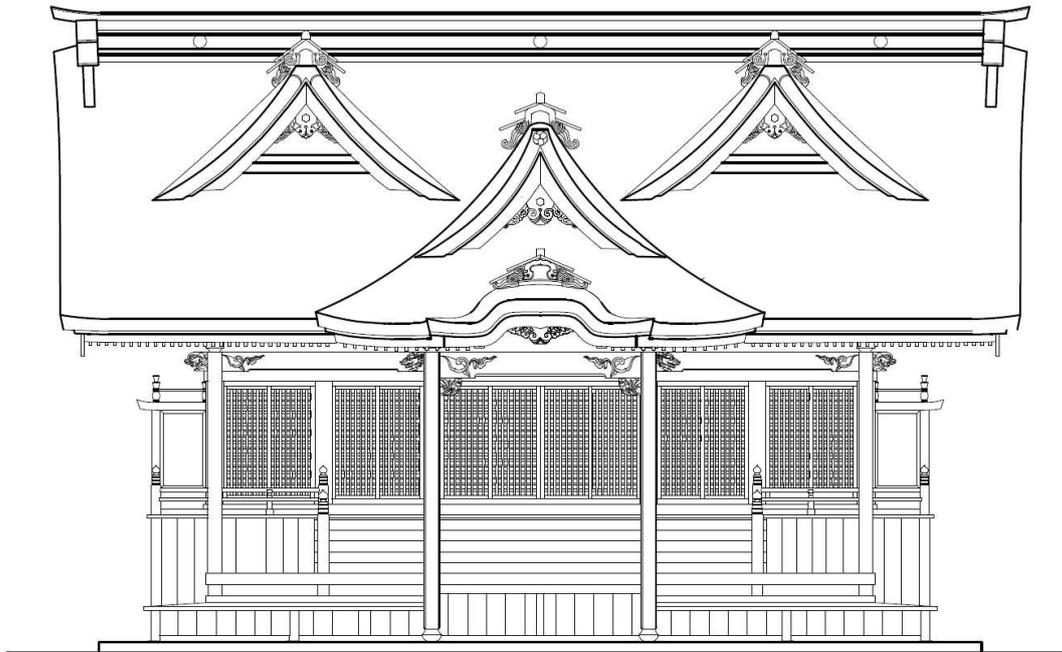


本殿底見上げ

图 面 等



平面图



正面立面图

用語解説

- (1) 棟札むねふだ 建物の新築、修理などをした際に、施主・施工者名・年月日・祈願文等を墨で書き付け、棟木等に打ち付ける、上部が駒形をした細長い板。
- (2) 流造ながれづくり 神社本殿形式の一つ。切妻造平入りの正面側に庇（向拝）をつけた本殿。全国的に最も流布した形式。
- (3) 檜皮葺ひわだぶき 檜の皮（檜皮）を屋根葺材として葺いた屋根。
- (4) 入母屋造いりもやづくり 寄棟と切妻の結合した屋根形式。
- (5) 軒唐破風のきからはふ 軒先の一部に造り出された唐破風（屋根の妻に垂木を隠すように取り付けられた破風という厚板の一形式で、中央部がむくり、左右で反転して破風尻でほぼ水平になるもの）。
- (6) 向拝ごはい 仏堂や神社の本殿・拝殿の前面中央に、突出して設けられた吹放しの部分。参詣者の礼拝のための空間。
- (7) 千鳥破風ちどりはふ 屋根面の中途に設けられた三角形の破風。千鳥は三角形の意。
- (8) 擬宝珠高欄ぎぼしこうらん 端部の柱に擬宝珠が付いた高欄。擬宝珠とは、伝統的建築物の装飾で橋や神社、寺院の階段の柱の上に設けられる飾り。
- (9) 脇障子わきしょうじ 三方に廻った縁の後方終端部にある衝立（ついたて）状のもの。
- (10) 格子引違こうしひきちがい 平行に設けられた溝やレールの上を左右に水平移動させて開閉できるようにした2枚以上の建具で構成された格子状の戸。
- (11) 板唐戸いたからと 1枚もしくは複数枚の厚板の上下に、反り止めの部材を用いはめこんだ板扉。
- (12) 妻飾つまかざり 屋根の妻面に取り付けた、虹梁、大瓶束、懸魚などの装飾部材。
- (13) 中備なかぞなえ 柱頭上の斗組と斗組の間にある藁股・束・組物・肘木の総称。
- (14) 高砂たかさご 長寿を保ち得た夫婦の愛情と平和をたたえる曲として、古来祝福の能の典型とされる。松の落葉をかく老人夫婦が登場し、これをモチーフとした彫刻が付けられている。
- (15) 虹梁こうりょう 社寺建築に主として用いられる化粧梁の一つ。奈良時代には弧状に近い形をしていたことからこの名がある。
- (16) 藁股かえるまた 二つの横木の間に設けて、上方の横木を受けるような形の部材。台形の斜辺を繰り返す。
- (17) 支輪しりん 軒裏において、通り肘木と桁の間に取り付けられた曲線状の材。
- (18) 組物くみもの 柱の上に載って軒を支える装置の事で、斗きょう（ときょう）という。斗きょうは、斗の部分とその上に載る細長い肘木の組み合わせによる。
- (19) 木鼻きばな 虹梁、頭貫の端部にある彫刻。単独で柱に取り付くものもある。
- (20) 尾垂木おだるき 斗きょうから斜め下方へ突き出している垂木。
- (21) 持送もちおくり 壁や柱から突出して庇・梁などを支える部材またはその構法。
- (22) 迦陵頻伽かりょうびんが 上半身が人で、下半身が鳥の仏教における想像上の生物。阿弥陀経では、極楽浄土に住むとされる。
- (23) 鬼板おにいた 棟積の端部に据えられる板でできた部材。
- (24) 懸魚げぎょ 建物の妻側において、棟木または桁の端に取付ける装飾的な繰形のある板。

高座神社本殿



01 本殿外観(南東面より見る)



02 本殿外観(南西面より見る)



03 本殿側面(東面)



04 本殿背側面(北東面より見る)



05 本殿正面



06 本殿向拝詳細

高座神社本殿



07 本殿庇見上げ



08 本殿屋根(正面より見る)



09 本殿外陣内部